

# 京丹後市のさまざまな 公共交通施策について

## 多様なアプローチ

- 山陰新幹線
- 200円バス
- 200円レール
- EV乗合タクシー
- ささえ合い交通



平成28年7月22日(金):総合的交通基盤整備連絡会議

京都府京丹後市役所企画政策課 野木秀康

# 大から小、域外から域内の公共交通について

①コース(域外からのアプローチ)

⇒スピーディーに  
グリーンにのせる

②グリーン(域内でのアプローチ)

⇒周辺環境の状況を捉えて、  
地域要望の声(カップ)に寄せる



1. 広域鉄道

2. 地域鉄道

200円レール

3. 路線バス

200円バス

中山間  
交通

中山間  
交通

4. 乗合タクシー  
5. ささえ合い交通

経済政策

福祉政策

# 第2次京丹後市総合計画(計画期間:10年<平成27年4月から平成37年3月>抜粋

## 施策17 まちの活性化を図る公共交通の充実

### 施策の目的

便利な公共交通により、さまざまな日常生活における移動支援を行い、スムーズな通院、通学、買い物、観光等の目的が達成できるよう充実します。

### 現状と課題

#### 【現状】

- 子どもや高齢者にとって、市内における公共施設や医療福祉施設の利用、買い物等よりも、近隣市町への移動について路線バスが欠かせない交通手段です。
- 平成18年に運行を開始した「上限200円バス」は、市内統一された運賃体系として利便性が向上し、年間輸送人員が取り組み前の2倍を超え、運賃収入も増加に転じています。
- 鉄道(KTR)では、抜本的な経営改善を行うため、インフラ管理と運営をわけた上下分離方式を導入することが決定し、平成27年度から新会社による経営がスタートします。
- 丹後2市2町でKTR高齢者片道200円レールと上限200円バスを展開中です。

#### 【課題】

- 免許証返納後の自家用車に代わる便利な移動手段としても、ますます公共交通網の充実が必要です。
- バス運行に対する増便要望への対応が必要です。
- 駅周辺ににぎわいゾーンを形成していくという方向性の共有と取り組みにより、鉄道を未来に残していく必要があります。
- KTRの新会社(上下分離後)との協働した利用促進活動が必要です。
- ICTを活用した公共交通に関する情報発信など、より利便性の向上に取り組む必要があります。
- 人と環境にやさしいモビリティ(電気タクシー等)の普及推進に取り組む必要があります。

### 施策方針(めざす姿)

運行事業者と連携し、上限200円バス、高齢者片道200円レールのさらなる利用促進に取り組むとともに、観光誘客につながる魅力的な移動手段(空間)の実現や利便性の向上を図ります。また、公共交通空白地の解消に努めます。

### めざす目標値

指標名	単位	現状値(H26)	目標値(H36)
公共交通空白地の解消	人	5,000	100
デマンド電気タクシーの導入数	台	0	6
電気自動車専用充電施設の設置数	箇所	3	15

### 行政の主な取組

#### ①公共交通の充実

- 広域的な公共交通計画を策定し、利用者ニーズに即した地域交通体系の整備を進めます。
- 上限200円バスの利用を促進するとともに、観光客の利用拡大を図ります。
- 公共交通空白地の解消に向け、環境に配慮したデマンド電気タクシー等の普及推進を図ります。
- ICTを活用した利便性の高い公共交通のネットワーク化を図ります。

#### ②鉄道の利用促進

- 車両、鉄軌道等の老朽化対策等、安全輸送確保の基盤整備を支援します。
- 駅舎を活かし、人が集まる多機能施設への転換を図るなど、駅の機能強化を進めるとともに、駅の愛称PRと沿線の魅力発信を行います。

#### ③ローカル鉄道とローカルバスの全世界への魅力発信

- KTR観光型列車「あおまつ号」「あかまつ号」「くろまつ号」、上限200円バスの魅力を国内外に積極的に発信し、集客の拡大を図ります。

#### ④将来を見据えた高速鉄道の整備実現

- 平成25年6月に設立した「山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議」の組織拡大と調査研究、国等への要望を行います。

### 市民等の役割

- マナーを守り積極的に公共交通を利用します。
- マイレール意識をもち、市民一人一人が「ワンモア運動」を展開します。  
※ワンモア運動：鉄道を愛用する、あるいは鉄道に関わる(駅ホームの植栽を行うなど)運動のこと。

### ■関連する主な事業

- 地方バス路線運行維持対策事業
- 市営バス運行事業
- 北近畿タンゴ鉄道利用促進対策事業
- 駅舎等施設管理事業

# 1. 広域鉄道

## 「北陸新幹線」と「山陰新幹線」の接続による日本海側国土軸形成の重要性

主に山陰地域を中心とした49の市町村で構成する「山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町村会議」の事務局を京丹後市が担当。



## 2. 地域鉄道

## 3. 路線バス

# 200円レールと200円バスの取組



取組前は、利用者数の減少の一途

◆地域鉄道(平成23年度～現在)の取組

抜本的な利用促進策「高齢者200円レール」

「高齢者利用3倍増」を設定し、最高1530円を上限200円に



鉄道を身近な乗り物に

- ①輸送人員が3倍超
- ②生きた公費負担に改善
- ③外出支援で歩いて元気

◆路線バス(平成18年度～現在)の取組

過疎地域で低額運賃を導入「上限200円バス」

「700円×2人」ではなく、「7人×200円」の取組へ



バス運賃の最高1150円を  
上限200円に

- ①輸送人員が年間2倍超
- ②運賃収入も年間30%増
- ③行政コストを年間18百万円減



便利になり、喜んでいただき、  
好循環の「輪」が広がる

② 高齢者が丸太ベンチを作成

① 高校生がバス待合所を作成



流木を使ってベンチを作製

③ 旅館のおかみさんが  
列車でおもてなし



公費負担を  
“良”とする  
世論の育成



④ 沿線住民が駅ホームに植栽

⑤ 高校生と園児が駅ホームに植栽



市民みんなで、公共交通を利用し、応援

# バス交通の主な取組み経過等

- 平成17年12月 大規模な市民アンケートを実施
- 平成18年10月 上限200円バスの実証運行開始(路線バスの一部路線(4路線)の運賃を上限200円に: 区間運賃最大700円→200円)
- 平成19年10月 上限200円バスの運行を市内全域に拡大(区間運賃最大1,150円→200円)
- 平成20年10月 新たな地域(集落)へのバス運行の乗入開始
- 平成21年10月 さらに、 //
- 平成22年10月 さらに、 // (実証運行から本運行へ移行)
- 平成24年10月 運行開始から6年連続で利用者数が続伸(2.3倍増)、運賃収入も30%増
- 平成25年10月 さらに、宮津市、伊根町、与謝野町にも上限200円バスが拡大(半島周遊ダイヤの設定)
- 平成26年 4月 消費税の運賃への転換は行わず、運賃200円のブランド化を死守。



# 200円ルール と 200円バス の成績

## ◆200円ルール



### 年次推移(成果等)

- H23. 6 200円ルールの実証運行開始(土日祝54日間) **利用者2.8倍**
- H24.10 " (平日にも拡大し171日間) **利用者3.1倍**
- H25. 4 丹後2市2町に200円ルールが通年で適用拡大
- H26. 4 200円ルールが4年連続で利用者増  
年間利用者44,595人
- H27. 4 民間会社(ウィラー社)による鉄道事業開始。  
200円ルールも継続。

3  
倍  
超  
で  
推  
移

単なる赤字補てんではなく、より多くの市民が負担  
少なく、サービスを受益しながら、同時に行政の  
投入額を大きく損なうことなく、地域鉄道の増収を  
図ることにつながっている。

### 波及効果

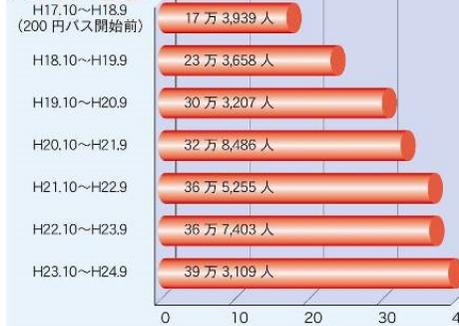
- ①地域鉄道の抜本的な利用促進
- ②経済活性化効果(他地域との  
交流増に伴う消費拡大)
- ③健康増進効果(徒歩外出)
- ④コミュニティの輪の拡充
- ⑤マイカーの送迎負担軽減
- ⑥ボランティア参加(植栽等)



## ◆200円バス



### 乗車数の推移



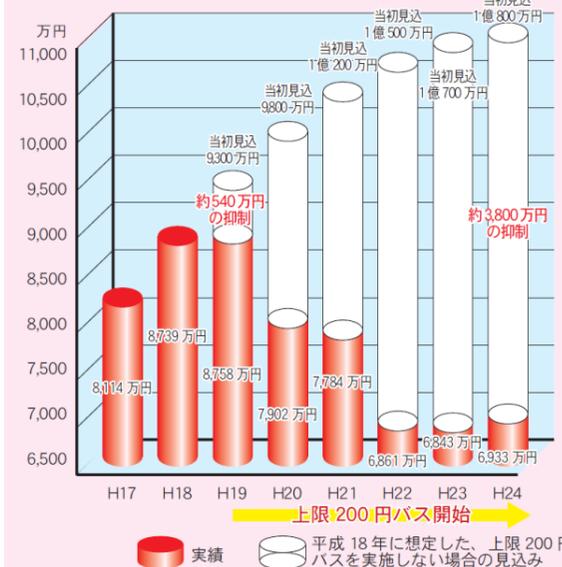
利用者2.3倍に

### 運賃収入の推移



収入1.3倍に

### 路線バス(丹海バス)への生活指定路線運行に対する市の補助金額の推移

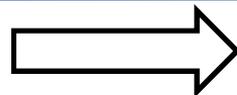


### 年次推移(成果等)

- H18.10 上限200円バスの実証運行開始
- H19.10 " を市内全域拡大
- H22.10 " を本運行に移行
- H24.10 運行6年目には、利用者数2.3倍  
運賃収入も30%増を達成
- H25.10 丹後2市2町に  
上限200円バスが拡大
- H26. 4 消費税増の運賃への転換  
はせず、運賃200円死守

## 4. 乗合タクシー

# H27.10.1～現在 民間タクシー撤退後の移動手段の確保



モノ(小荷物)と  
サービス(買い物代行等)  
の新たな輸送サービスの  
展開が可能に。

※H27.4に国から通達を  
発出していただいた。



新たな輸送サービスの展開

小荷物輸送



買い物代行



見守り代行



図書館代行



病院予約代行



## 5. ささえ合い交通

# H28.5.26～現在。地元NPO法人による公共交通空白地有償運送。



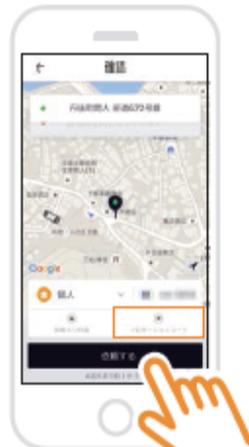
1. システム力により、遊休資産(住民と自家用車)を無理なく活躍。※システム提供はUBER JAPAN
2. 携帯電話を介して、ユーザーとドライバーがマッチングされます(ICTの導入は、世界的な時代の潮流)。
3. クレジットカードによる自動決済がラクチン。
4. 運行状況・内容の透明性が極めて高い。



**1** 「Uber (ウーバー)」  
のアプリを押す



**2** 画面真ん中の  
黒い部分を押す



**3** 画面下の  
「依頼する」を押す



**4** 後は  
待つだけ!

## 配車方法



**運行日** 年中無休 (毎日)  
**運行時間** 8:00～20:00

**運賃** 最初の1.5kmまで480円、以遠は120円/km加算  
**対象者** 地域住民の皆様、観光客など

自家用車 ← システム力で 活躍の領域拡大 → 住民



✓ すぐ近くにいる車がお迎えにいきます

✓ 住民同士の ささえ合い

✓ おとく

ささえ合い交通

出発 「乗車」できる地域 丹後町 丹後町内は 乗り降り自由

到着 「降車」できる地域 京丹後市 全域

丹後町外から丹後町へ向かう乗車(利用)はできません。その場合は、バス・タクシーをご利用ください!



料金の目安

京丹後市丹後庁舎 ~ 峰山駅 ¥2,100~2,800

宇川小学校 ~ 峰山駅 ¥2,800~3,800

宇川小学校 ~ 京丹後市丹後庁舎 ¥1,200~1,500

# その他 (200円バス資料編)

# 実証1年前のアンケート結果(京丹後市)

(平成17年12月実施、高校生対象)

高校生1,584人の**不満項目**の上位

- 1位 運賃が高い(692人)
- 2位 全体の運行本数が少ない(474人)
- 3位 バス停までの距離が遠い(287人)
- 4位 通学時間帯の運行本数が少ない(252人)
- 5位 運行ダイヤが分かりにくい(247人)
- 6位 情報提供が少なく分かりにくい(245人)
- 7位 直行しないので時間がかかる(234人)



# 実証2年目のアンケート結果(京丹後市)

(平成20年12月実施、高校生対象)

## 高校生1,281人の不満項目の上位

( )内は前回順位

- 1位(2位↑) 全体の運行本数が少ない(449人)
- 2位(-) 夜間に帰るバスがない(306人)
- 3位(7位↑) 直行しないので時間がかかる(245人)
- 4位(-) 目的地に行くバスがない(222人)
- 5位(-) 車両が小さく、一杯で乗れない(210人)
- 6位(4位↓) 通学時間帯の運行本数が少ない(192人)
- 7位(3位↓) バス停までの距離が遠い(161人)
- 8位(6位↓) 情報提供が少なく分かりにくい(102人)
- 9位(5位↓) 運行ダイヤが分かりにくい(82人)
- 10位(1位↓) 運賃が高い(60人)



# 満足度調査(京丹後市)

## (平成20年12月実施、高校生対象) バスを利用したことがある高校生889人の 満足度の向上項目

- 1位 運賃が安くなり分かりやすくなった(369人)
- 2位 通学以外でも出かけるようになった(180人)
- 3位 回数券が車内購入できるようになった(178人)
- 4位 **マイカー通学からバス通学になり  
保護者の負担が減った(124人)**
- 5位 地域の人のお出かけが増えたと感じる(80人)
- 6位 地域で誇れるバスがありうれしい(58人)
- 7位 バス通学になり車内で勉強するようになった(47人)
- 8位 **高校進学時での高校の選択の幅が広がった(29人)**
- 9位 まちづくりの発展の期待が膨らんだ(27人)
- 10位 路線バスが好き(愛着が増した)になった(26人)

1 <sup>41</sup> 200	2 <sup>42</sup> 200	3 <sup>43</sup> 200
11 200	12 200	13 200
21 200	22 200	23 200
31 150	32 150	33





# ① 運賃を知ってもらう

区間最大 1,150円 が **市内一律** **上限** **200円** に

さらに、小学生と身障者の方では半額の100円に

6歳未満のお子さんは **無料** に



※上記の数字は京丹後市の場合。

## ②回数券を知ってもらう

バスの **車内** で購入可能に

1回乗車賃が **154円** 相当に



### ③バス停や車両を知ってもらう

バスの **段差** が解消  
バス停を137か所から  
**178か所** へ

※上記の数字は京丹後市の場合。京丹後市営バスも88→105か所へ



弥栄病院の玄関口にバス停を設置しました

新たな地域へバスが走るようになりました



知ってもらう・「**乗ってもらう**」・愛用してもらう



# 知ってもらう・乗ってもらう・「愛用してもらう」

◆上限200円バスに乗ったことがある高校生668人に聞きました。(実証1年後)

ほぼ毎日利用している	124	以前は全く利用がなかった人	71
		以前は月に1～3回利用していた人	25
		以前は週に1～3回利用していた人	28
週に1～3回利用している	100	以前は全く利用がなかった人	61
		以前は月に1～3回利用していた人	39
月に1～3回利用している	162	以前は全く利用がなかった人	162
その他(年数回程度)	282		

計668人



⇒ 実に **294人** もの高校生の新たな利用が始まり、利用回数も大きく増進しました。

# 丹後半島全域上限200円バススタート

平成25年10月1日 宮津市、伊根町、与謝野町にも

上限200円バスが運行拡大(丹後半島全域に)



天橋立～伊根経由～経ヶ岬は  
400円に  
加悦～伊根経由～経ヶ岬は  
400円に  
経ヶ岬～間人経由～峰山は  
200円に



# 丹後地域の公共交通ブランド(ただし、平成25年度までのもの)

200円さえあれば移動できるという地域の安心ブランドへの取り組み

上限200円バス

全利用者対象

京丹後市 H18.10~

丹後半島全域 H25.10~

京丹後市 6年連続利用者増

上限200円レール

取組スタート

京丹後市 H22.6~

丹後半島全域 H24.10~

3年連続利用者増

過疎地域発：公共交通のブランド化

健康長寿社会×安心安全便利な公共交通=豊かな暮らし

力を終結するキーワード「丹後は一つ」

# アンケート調査以外のニーズ把握



バス停で利用者から



老人会で高齢者から



集客イベント時に住民から



研究会のみなさんから



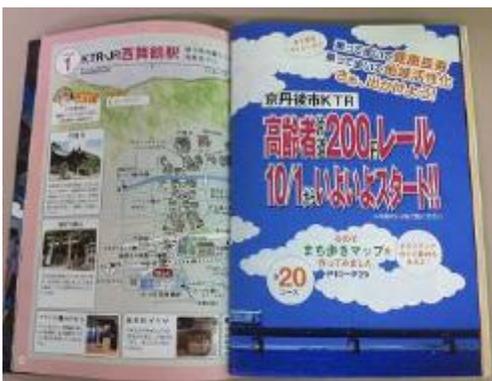
学生さんが調査のお手伝い(各種大学等)



ご意見など

# その他 (200円レール資料編)

# ■ 域内対策 鉄道も便利になれば、バス施策と相乗！



200円レールで高齢者の輸送人員  
3倍達成！！ 4年連続増！！



# 駅舎及び駅周辺を“花いっぱい”に 沿線住民によるおもてなしの実践(住民協働)

